



令和6年度

仁比山っ子

神崎市立仁比山小学校

学校だより No. 65

令和6年度15号

令和6年9月9日

文責：校長 秋吉 洋志

平和について考えるきっかけに

8月27日(火) 平和集会を行いました。今年度の平和集会は、すぎの子文庫のスタッフの皆さんから読み語りをしていただきました。

本のタイトルは『トットちゃんの15つぶの大豆』。黒柳徹子さんの幼少期の戦争体験を語ったお話です。戦時中の食糧難で1日で口に入れることができるものはたった15つぶの大豆。トットちゃんは少しでも空腹から逃れるためにどのタイミングでいくつ食べるか悩みます。また、トットちゃんは「帰った時、ちゃんと家があるかな」「家族は生きているかな」と心の底から心配します。

現在では想像もできない事態です。

世界に目を向けると、今もウクライナでは戦闘が続いていますし、その他にもアフガニスタン、パレスチナ、シリア、リビア等…世界では多くの紛争が続いています。そして、戦争・紛争では多くの子どもが犠牲になっているのが現状です。

だからこそ、子どもたち自身に平和について学ぶ機会が必要だと考えています。

まずは、子ども自身の目線で身の回りの対人関係から考えてもらいたいと願います。そして、学年に応じて歴史からも学んでもらえれば、と思います。

先日の台風でも多くの犠牲が出ましたが、台風は自然災害であり発生そのものを防ぐことはできません。しかし、戦争は…起こすのは人間です。自然災害とはちがいます。



郷土の誇り 伊東玄朴について学びました(4年生)

仁比山の代表的な偉人「伊東玄朴」の主な業績です。

寛政12年(1800)に神埼町仁比山に生まれています。シーボルトとの鳴滝塾で本格的に蘭学を学んでいます。江戸に出て蘭方医として開業、象先堂という蘭学塾で人材育成を行うとともに、医療正始などの蘭書翻訳出版も多く手掛けています。佐賀藩により公式種痘の成功に尽力、江戸で蘭方医らとともにお玉ヶ池種痘所を設立し、我が国最初の予防医療活動を行っています。蘭方医としては始めて将軍奥医師となり、医官最高の法印となり西洋医学の導入と定着に先駆的な役割を果たしています。

神埼デジタルミュージアム「かんざき@NAVI」より

あくなき向上心、高いモチベーションによって素晴らしい業績を残したものと受け取っています。故郷にとどまっていれば、穏やかに豊かに生活できた可能性が高いのに、新たなる学びを求めて長崎、そして江戸へと旅立ちます。なぜでしょう。

本校の4年生は総合的な学習の時間に、伊東玄朴の生涯と業績について調べています。そこで、この伊東玄朴の生涯を「竹の会(退職された女性の先生方の会)」の皆様から伊東玄朴の布芝居(紙芝居の布バージョン:竹の会の皆様の手作り)をしていただきました。伊東玄朴の生涯が分かりやすくまとめられている上に、会員の皆様から熱演していただいたので、子供たちも夢中で見入っていました。

